



- No. 1 学生奮戦記
- No. 2 2018信州+ (プラス)
- No. 5 行動する学問 オープンキャンパスバスツアー
- No. 6 大学スタディ・ツアー・ふくしのお仕事紹介
- No. 7 心理臨床学科の案内・アート&クラフト展
- No. 8 入試情報・イベント情報

学生奮戦記

2018年は長野県出身の在学生たちの活躍が目立った1年となりました。今回はその中から、2人の在学生の活動をご紹介します！

英語好きな生徒が増えるように

教員を目指したきっかけ

私が本格的に英語教員を目指したきっかけは、3年次に半年間取り組んだ本学付属高校での「国際協働インターンシップ」で教師という職業の魅力にはまったことです。

実際の教育現場を自分の目で見たことにより、教員の仕事の大変さだけでなく、やりがいを感じました。4年次の教育実習では教壇に立ち授業をする中で、生徒たちと真剣に向き合うことの楽しさを実感しました。どうすれば生徒たちが楽しく授業を受けてくれるだろうかと考え、その授業に一生懸命取り組む姿を見ることができたことは、嬉しくて今でも忘れません。



国際協働インターンシップとは

教員を目指すきっかけとなった「国際協働インターンシップ」は国際福祉開発学部ならではの取り組みで、教育実習に行く前の良い事前準備となりました。授業以外の仕事（配布物の印刷や補習テキストの製本等）に関しても学んでいたため、教育実習時も苦労することなく行うことができました。

大学での講義では模擬授業の機会が多くあり、教授や教職課程の履修者たちからのフィードバックをもらうことで反省点を活かしながら次の授業の指導案作りに取り組むことができました。

国際福祉開発学部 佐藤 星 さん 国際福祉開発学科 4年 (野沢北高校出身)

留学経験は一生の宝

英語教員を目指すようになってから「少しでも英語力を伸ばしたい」、「社会に出る前に海外経験をしたい」と思い、教育実習が終わった4年次後期から約1年間、アメリカ・ワシントン州の大学に留学をしました。

英語学習はもちろんのこと、現地の人や他国からの留学生と関わり、本当にたくさんのことを学ぶことができました。そこでの経験は私の人間性を成長させてくれ、そして私の一生の宝です。



4月からいよいよ先生に！

春から学校の先生になると思うと楽しみな反面、不安と緊張でいっぱいというのが正直なところでした。しかし、どんな学校でどんな生徒たちと関われるのだろうかと思案すると、ワクワクしてきます。



最終学年になってから教職課程に一生懸命取り組んできましたので、そこで学んだことを存分に発揮しながらも新しいことに果敢に挑戦し、英語好きな生徒が少しでも増えるよう、そして日本の英語教育がより良くなるよう、精一杯努めたいと思っています。

顔の見える関係づくりを目指して

につぶくにこにこカルタ

2年次に認知症啓発を目的とした「につぶくにこにこカルタ」を講義の一環で作成しました。

すべての人に、認知症に対して正しい理解をしてほしいと願い、声掛けや接し方の方法を伝えられるよう、読み札やイラストに工夫しました。

このカルタには、「認知症」という言葉は一切使用していません。大人から子供までカルタという身近な遊びを通して、認知症は怖いという偏見をなくし、誰もが住みやすい社会になってほしいという願いもこめられています。

現在、このカルタはイベントなどで使われる他、高齢者施設や小学校に寄贈され、多くの方に使っていただいています。

ゼロの状態から自分たちで絵札や読み札を考案したり、手作業でカルタを切り貼りしたりという行程には大変なこともありましたが、一生懸命作ったものが形になる喜びや世の中に発信できることの喜びは忘れられない経験になりました。

今後このカルタがもっと多くの方に広まり、認知症への理解が進むことを期待しています。



社会福祉学部 天野 歩未乃 さん 社会福祉学科 3年 (篠ノ井高校出身)

地域のみなさんが気軽に集まれる「コミュニティスペース」を作りたい

「地域福祉」に関心があり、大学では日々多くのことを吸収しています。講義は座学だけではなく、NPO法人の障害者就労支援施設へ行ったり、大阪西成区へフィールドワークに出かけたりと、地域や現場で課題を調査したり、体験を通して学ぶ機会が多くあります。

また、「DoNaBe-Netにつぶく」というサークルに入り、日本福祉大学が位置する美浜町の住民と『食』をツールに地域交流をしています。

大学生と住民がつながることによって、まちづくりや災害に備え「顔の見える関係づくり」を目指しています。そのため、自分たちで企画したイベントを地域の公民館で開催したり、地域行事の夏祭りなどのへも積極的に参加しています。徐々に地域の方とつながりが生まれ、久しぶりお逢いした住民の方が私の名前を覚えてくれて、声をかけてもらった時はとても嬉しかったです。

私は大学で人として生きていく上で大切なことを学び、考え、知ることができました。多くの友人や先生、先輩、後輩に恵まれ充実した生活を送っています。

将来は地元に戻り、大学での学びを活かし、地域の人々の居場所や生きがいをつくる場所となる「コミュニティスペース」を作りたいと考えています。そのためにも、残りの大学生活では更なる学びを深め社会福祉士取得のために勉強も頑張りたいと思います。



2018 信州+ (プラス)

長野県出身の学生活動や長野県内でのフィールドワークを紹介している「信州+」。学生参加のフィールドワークを紹介して、みなさんの学生生活の充実と未来戦略をサポートする取り組みです。講義だけでは分からない、サークル活動やバイトだけでは見えてこない世界があります。そんな未知のゾーンに踏み込んで、県下全域の地域と現場に関わって、自分の世界や視野を広げてほしいと思います。長野県を離れ愛知県で生活をする中で改めて感じた、長野県の魅力とは何でしょう？

1 地域に貢献したい！ 学生フィールドワーク 辰野町川島地区のまちづくりを支援

本学は辰野町・辰野高校と2007年に提携を締結以降、川島地区を中心に同地区が主催する地域おこし事業に参加し交流を続けてきました。2018年度も、花街道の植栽活動や横川峡紅葉祭りへの運営支援、川島小学校での運動会サポートなど多様な活動を展開しています。これまで、川島地区での活動は正課講義のなかで行われてきましたが、今年度より長野県出身者による故郷支援の一環として再スタートをしました。



【花街道整備その1】花いっぱいの道路を作ろう！

6月24日(日)、今年も辰野町市街地から川島地区に向かうアクセス道路「花街道」沿いで植栽活動に参加しました。この活動は、これまで辰野町内でのフィールドワークを主導し今春退官された後藤順久元経済学部教授が10年ほど前に同地区を訪れた際に、花街道の看板がありながら沿道に花がみられないことに疑問を抱き、地域の方々に働きかけてスタートしたものです。この間、川島振興会の皆さんと協力して続けてきた植栽活動を今年度も引継ぎ実施しました。



今年は、経済学部とスポーツ科学部の13名が2班に分かれ一ノ瀬と渡戸エリアで、川島振興会の皆さんの指導のもと約1600本のドーム菊を移植しました。暑い日差しと慣れない作業に苦戦する学生に比べ、地域の皆さんの手際の良さには驚きました。



ドーム菊は、10月末日に同地区で実施される「横川峡もみじ祭」の期間中に黄色い花を咲かせ、訪れた人を歓迎したいという思いが込められています。参加した学生からも「ドーム菊の植栽では、川島地区をこれまで以上に元気にしたいという振興会の皆さんの気持ちを感じながら楽しく作業をすることができた。満開になる姿が楽しみ」と感想が聞かれました。

【花街道整備その2】花街道に看板を建てよう！

6月に植えたドーム菊も順調に成長している中、昨年度からの継続事業でもある花街道の看板づくりに、子ども発達学部とスポーツ科学部の学生7名が参加しました。

10年ほど前に設置された案内看板は、時間の経過とともにその一部が朽ちてしまう状態で、経済学部の学生たちが川島振興会に建て替えを提案し、昨年は7カ所ある看板のうち、3カ所が更新されました。今年に残る4カ所(飯沼沢、一ノ瀬、川上、源上)の更新を予定しています。

この日は看板に街道名を表記する作業が行われました。およそ1メートルの杉板に文字が記された紙を貼り、その周囲を彫刻刀で掘り出していくことで、浮き上がらせていくものです。慣れない作業に当初は戸惑いを見せていましたが、川島振興会のメンバーのサポートを受けながら作業を進めていくうちにコツをつかみ、時には笑い合いながら作業する姿も見られました。



限られた時間での作業だったため、完成までには至りませんでした。最後には各自のイニシャルを看板に記し再度の訪問を決意していました。



辰野町立川島小学校 運動会サポート 笑顔・感動・協力 川島のみんなで楽しもう

川島小学校は全校児童11人の小規模校ですが、地域や保護者と連携したきめ細かい教育を展開しています。

当日はあいにくの雨模様で翌日以降も雨天が予報されていることから、会場を体育館に変更し運動会は実施されました。地域おこし協力隊の角谷さんも応援にかけつけるなか、参加した学生7名は教員から当日の運営等の説明を受けた後、学生間で役割分担を行いました。



開始にあたり、児童たちは運動会の目標を一人ひとり大声で宣言して入場してきました。そんな姿を学生たちは笑顔で出迎えます。

川島小学校の運動会は保護者や地域住民も参加する全員参加型であることが大きな特徴です。

屋内での実施に伴い、競技の内容が一部変更となりましたが学生たちは、運営の補助だけでなく一人の参加者として競技に参加することで、子どもたちや保護者らとも自然に会話する姿も見られました。

「最後までがんばったね」「かつよかったよ」など、子どもたちへ声をかけながらも、競技がスムーズに進行できるよう気を配り、先生方の動きにも目を向けながら、準備や片付けにも積極的に動いている学生たち。



運動会の後半にはメインイベントの一つである一輪車パレードでは、日ごろの練習の成果を存分に発揮し多彩な動きを披露する児童たちに、感動の涙を浮かべる姿もみられました。



川島小学校の児童とは初対面ではありましたが、運動会当日の子ども達の姿から、友達と励まし合い、今日まで何度も練習を重ねてきた姿が想像できます。また先生方が児童全員主役になり達成感を得られるように各種目が工夫されていたことも実感でき、これから教員を目ざす学生にとっては、今までには感じたことがない感動的な運動会になりました。



横川峡紅葉祭りに参加！地域のみなさんのパワーはすごい！

10月28日(日)、辰野町のかやぶきの館で「紅葉祭り」が開催されました。社会福祉学部、子ども発達学部、国際福祉開発学部8名が前日から来町し、テントの設営や看板の設置、周辺地域にのぼりを設置するなど、主催団体に協力しました。その後は、川島地区の名所や天然記念物である「蛇石」を見学しながら、当日の役割分担などの打ち合わせを行いました。

ここ数年、悪天候の中での開催となっていた紅葉祭りですが、今年は紅葉した木々が間近に迫る光景に包まれた秋空のもと、お祭りが始まりました。

学生たちはバザーとして持ち込まれた商品の陳列やふるまい酒の配布、ハロウィン会場の対応などを担当しながら、来場者や地域の方々と交流しました。

また、大学企画として社会福祉学部の学生が昨年度開発した、認知症啓発カルタを使い、子どもたちと交流しました。カルタを開発した学生の1人が長野県出身で、当日は参加することができませんでしたが、少しでも地域に貢献できればという思いを長野県出身の後輩が引き継ぎ、実施されました。

学生がマイクを使って呼びかけると、紅葉祭りに出店していた川島小学校の児童たちが集まってきて、読み札をよみあげるたびに、子どもたちは絵札を競いながら取っていきます。そして学生が言葉の意味などを説明するたびに、小学校の教員が補足で説明するなど即席の授業が始まったかのようでした。



参加した学生からは、「カルタを担当したが、子どもたちに言葉の意味を伝えることが難しく、それをフォローしてくださった先生の言葉遣いや姿勢をこの目で見て勉強させていただくことができた。今後も川島振興会の皆さんと交流を重ねながら、子どもたちとの交流も深めていければ」と感想が聞かれました。

辰野町地域おこし協力隊 角谷 達則さん

2018年4月から本学（経済学部）を休学して地域おこし協力隊としてメンバーの皆さんと一緒に地域活性化に向けた活動を展開しています。辰野町でのフィールドワーク時には、大学の先輩として、みんなの相談にも応じてくれる頼りになる先輩です！



地域おこし協力隊に赴任するまでに7回ほど、辰野町で活動を行ったことがあります。辰野町の人々との度重なる触れ合いにより同地へ貢献したいという思いが強くなり、地域おこし協力隊に応募し、現在に至ります。

辰野町内で見かけた時は、気軽に声をかけてください！

2 長野県人会×経済学部

木曾地域復興支援に向けた活動を大学祭で展開！

地元名物を販売し、売り上げの一部を木曾地域の復興支援に役立てます！

長野県出身者による学生組織「長野県人会」の学生と木曾地域でのインターンシップに参加した経済学部生が、11月3日の大学祭で木曾地域の食材を使った豚汁と長野県産のリンゴを出店し、その利益の一部を寄付するべく共同で活動しました。



今回の取り組みは、平成26年に発災した御嶽山噴火災害により観光客の落ち込むなか、今夏木曾地域にインターンシップに参加した経済学部生が長野県人会の学生に復興支援に向けた取り組みを長野県人会に呼びかけ実現した企画で、長野県名古屋事務所の支援を受けて行われました。

長野県人会の「豚汁」は、歴代の先輩方から食材や味付けレシピが受け継がれており、毎年楽しみにしてくれている常連客もいます。今年はその豚汁に信州味噌を使ったことで例年以上にこくが出て、お客様にも「美味しい」と大好評。長野県産のリンゴとともに豚汁も見事に完売しました。長野県他、福井・石川、静岡、岐阜、九州、沖縄の各県人会が郷土食の模擬店を出店し、どの店も大盛況でした。

大学祭での売り上げの一部16,848円は、12月10日(月)に原久仁 男木曾広域連合長(木曾町長)に寄付しました。

寄付金贈呈式に出席した長野県人会長の天野歩未乃さんは、「木曾地域の観光客を増やすために、このお金を使っていただければ嬉しいです」と故郷への思いを話していました。



長野県人会の活動紹介

長野県人会では、年間を通していろいろな楽しい企画を行っています。

春：新入生歓迎会、たけのご狩り

夏：流しそば&そうめんパーティー

秋：大学祭にてリンゴ&豚汁などの販売、打ち上げ会

冬：クリスマスパーティー

この他にもUターン就職説明会、キャリア相談会、長野県でのフィールドワーク活動へ参加など、様々な企画が開催されています。

私はこの活動を通して多くの友達や先輩、後輩と繋がることができました。今年の大学祭では、県内のリンゴと豚汁などを販売し、県外の皆さんから「美味しいね」という声を多くいただき、長野の良さを多くの方に知ってもらえて、とても嬉しかったです。

また、長野県人会は先輩と後輩の仲がとても良く、県民のあたたかさを感じます。プライベートでもご飯や遊びに行くことも多いです。また地元の先輩に就職や実習、テストなどの話や情報も聞くことができ、勉強や就職の面でもサポートしてもらっています。

皆さんも私たちと一緒に長野県人会で活動して、楽しい思い出を作りませんか？

優しい長野県民がお待ちしています。

長野県人会長 天野 歩未乃

3 日本の文化を体験しよう！宮田村で国際交流



宮田村と日本福祉大学は、1998年同村出身の本学学生(天野早人氏・現宮田村議会議員)らが中心となり、宮田村の観光や商店街の活性化に取り組み提言したことをきっかけで、2001年8月26日「友好協力宣言」が交わされました。以来、村づくりの取り組みをはじめ、学生による地域調査や社会福祉実習などへの教育支援、子育て支援、産業振興など、多様な活動が行われてきました。また、連携の一環として宮田村交流協会から「りんごの木オーナー」権を寄贈いただきました。

11月16日(金)、国際福祉開発学部で学ぶ留学生10人が宮田村で、同村宮田中学校生徒との交流やリンゴの収穫体験を行いました。

今回の企画は、日本文化に対する理解の促進と提携自治体である同村の子どもたちとの国際交流を目的に、国際福祉開発学部の事業として実施されました。

学生たちは宮田村役場を訪問し小田切康彦村長からの激励を受けた後に宮田中学校に移動し中学生と一緒に給食を食べながら交流を行いました。

当初はお互いに緊張があり静寂のなか食事が進んでいきましたが、次第に打ち解けていき、留学生の母国や宮田村のことを質問し合う様子がみられ、交流の最後には生徒たちが留学生の周りを取り囲むなど、笑顔あふれるひと時となりました。



午後は、宮田村内にある駒が原りんご園で収穫体験が行われました。生産者の清水さんから、リンゴができるまでに行う摘果作業をはじめとする工程や収穫方法の説明を受けてから、いよいよ作業開始。

はしごを使い高所にあるリンゴを収穫したり、もぎたてのリンゴを味わったり、たわわに実ったリンゴの写真SNSに投稿したりと、寒さを忘れて各々過ごしていました。

異文化体験の最後は、宮田村内の散策です。案内役は天野早人さん。三州街道における有力な宿場町の1つである「宮田宿」が整備されたことなど、村内に残る伝統的な建造物の特徴と合わせて解説されました。留学生たちはその姿を撮影しながら、その文化を学んでいきました。



参加した留学生からは、「山々が目の前に迫るような地形の長野県は故郷を思い出す」、「リンゴを母国に持ち帰って育てたい」などの感想が寄せられました。

日本に来てから、勉強やアルバイトでなかなか愛知県外に出かけることができなかった留学生にとっては、宮田村の自然と地域のみなさんの温かさが、何よりもリフレッシュになったようです。

4 寿齢讃歌写真展

4 モデルはおじいちゃん、おばあちゃん

茅野市美術館の協力により、12月4日(火)から2週間、「寿齢讃歌一人生のマエストロ-in 東海キャンパス」をキャンパス1Fエントランスで開催しました。

2018年9月15日から30日まで、茅野市美術館で開催された「寿齢讃歌写真展13」の作品の中から28点をお借りし、表情豊かなおじいちゃん、おばあちゃんの写真を展示しました。

作品をみた学生や教職員からは、「歳を重ねることも悪くないのかな。シワやシミにその人の人生が刻まれている」、「自然の中でみんないきいきとした良い表情をしている」、「帰省した時に家族と写真を撮ってみようと思う」など、たくさんの方が声を聞かれました。

茅野市美術館の「寿齢讃歌写真展」は本学卒業生で客員教授でもあった故木之下晃先生が始められた写真展です。賞を与えるコンテストではなく、人生が映し出される高齢者の表情を大切に記録し、未来への遺産にしていけることを目的として、今年13回目を迎えました。



今年は、各県から出展された94名の作品と、関連企画「子どもたちの寿齢讃歌」に応募してくれた小学生以下の子も達が撮影した写真が美術館内に展示されました。

子ども達が撮影したおじいちゃんやおばあちゃんの表情はどれも優しく、見ている私たちが温かな気持ちにしてくれました。

5

みんなで長野県に帰ろう

まずは情報をしっかり集めよう！

2018年1月に長野県とのUターン就職促進協定を締結して、1年が経とうとしています。

これまで、長野県産業労働部 労働雇用課の担当者様に本学美浜キャンパスで開催された「Uターン就職相談会」や11月に長野市で開催された「日本福祉大学セミナー」にて保護者向けの就職相談会にご参加いただき、長野県内の雇用現状やUターン就職活動においてのポイントを教えてくださいました。

「愛知県にいると長野県内の情報を集めることが難しい」、「長野県内で働いている先輩の話聞いてみたい」、「何から準備をすればいいのかわからない」など、就職活動に不安を抱いている学生や保護者に対しても、県の担当者様から就職情報の集め方やインターンシップ応援補助金の制度等などが紹介されました。

12月に美浜キャンパスで開催されたUターン就職ガイダンスに参加した学生からは「将来のことを考えると、楽しみより不安ばかりが頭をよぎると」との声もありました。将来どんな大人になりたいのか、どんな仕事をしたいのか、学生にとって不安は尽きないとは思いますが、学生のみなさんをサポートしてくれる機関は大学内外にたくさんあります。ぜひ積極的に活用してください。

松本オフィスもみなさんを全力でサポートします！

あなたの学生生活に信州を+、
信州にあなたの学生生活を+！



行動する学問。

日本福祉大学が掲げる「行動する学問。」とは何か？

『現場に出て人々と語り合う中で知る本当の問題。その本質を見極め、課題解決に向けて行動するという積み重ねが力となる』

日本福祉大学では教室の中や教科書だけの学びではなく、学生が地域に飛び出し、実践的に学ぶフィールドワークに力を入れています。実践的な学び・発見を得るべく高校生向けに開催している各イベントをご紹介します。最初の一步は、オープンキャンパスへ！

「日本福祉大学 オープンキャンパスバスツアー」を大解剖

2018年度は台風の影響で夏のバスツアーが中止となってしまう、秋のみの開催となりましたが、長野県から46名の方にご参加いただきました。今年は長野県のお他、北陸・静岡・大阪など地方からもバスツアーを開催し、多くの方々に美浜キャンパスでの学びを体験してもらいました。オープンキャンパスでは、キャンパスガイドだけでは伝わらない大学の雰囲気や講義の内容を自身の目でしっかりとチェックできます！

お申し込んだ
最寄りのバス乗降
場所から出発します。



出発です！
いざ、美浜キャンパスへ！

バス内では当日のスケジュールやポイント説明の他、当日担当する学生の紹介 VTR を放映。大学紹介 VTR はバスツアー参加者のために作られたオリジナルです。



大学に着くと、担当の学生スタッフがお出迎え。私たちも高校生の時にバスツアーに参加しました！



学食体験

★ポイント★

栄養バランスが考えられたセットメニューが大人気。ご飯の量も小・中・大・特大と選べます。



学部別「学び」体験

★ポイント★

実際の講義と同じ模擬授業を行います。子ども発達学科の講義では、ただ物を作るだけではなく「どのような目的で作るのか？」「製作のポイント」などが説明されました。



キャンパスツアー

★ポイント★

学部や入試のことはもちろん、サークル、大学生活、一人暮らし、何でも聞いてください。長野県出身の学生が担当してくれるので、地元の話で盛り上がることも。

大学内では学部や入試に関するさまざまなイベントが開催されています。気になるところを隈なくチェック！！



各学部 カフェ

★ポイント★
各学部を設置されているカフェでは先輩や教員が皆さんをお待ちしています。入試のアドバイスやさまざまな疑問・質問に答えてくれます。



保護者説明会

★ポイント★

保護者向けのガイダンスでは、取得可能な資格や就職率、学費や下宿についての説明があります。

オープンキャンパスの最後に改めて気になること、不安に思うこと等を在学学生に質問。



最後に記念撮影
ご参加いただき有難うございました！

帰路は、休憩をはさみながら順次バス乗降場所で解散となります。お疲れさまでした！



学生スタッフとお別れ
寂しいけど、また会おうね・・・



同郷在学学生との懇談

バスツアーにご参加いただいた感想

★オープンキャンパスを通して大学の色々なことを知ることができ、また学生の方のリアルなお話も聞けました。今後、進路を考えていく上で、今回得た情報を役立てていきたいと思いました。(南信地域 1年生)

★在学の方から実際の大学生活について詳しく聞けたので良かったです。大学の様子や雰囲気がよくわかりました。授業内容も面白かったです。(南信地域 3年生)

★車いすバスケがすごく楽しくて、足の不自由な方の気持ちがわかって良かった。学び体験も筋力チエックをしたりして、楽しかった。(南信地域 2年生)

★HPやパンフレットだけではわからなかった大学の雰囲気などを感じることができて良かったです。個別相談会でスタッフの方が丁寧に教えてくださったので、やる気が出ました。(南信地域 3年生)

★スタッフの方が丁寧に対応してくださり、大変有り難かったです。受験までにどんなことをやっておかなければいけないのか課題が明確になりました。(中信地域 教員)

★長野から無料バスが出るということは非常に助かりました。時間を気にせずオープンキャンパスに参加できました。社会福祉に関して少し視野が広がったようです。(南信地域 保護者)

★長野発のバスがあって良かったです。バスがなければオープンキャンパスには来てなかったと思います。とても充実した一日を過ごすことが出来ました。(北信地域 保護者)

★今回、大学の先生の話聞き、感動しました。物づくりにしても完成するまでの行程の個性を見て下さる先生の言葉に感動しました。(北信地域 保護者)

2018年大学スタディ・ツアー 大学ではどんな学びをするの？

10月1日（月）長野県阿南高等学校福祉コース2年生

福祉系の上級資格取得を考えている生徒に、高校卒業後の進路、自分自身の将来について考える機会として、今年も大学スタディ・ツアーを開催しました。

美浜キャンパスでは、「地域でいつまでも住み続けるために必要なものとは」をテーマに社会福祉学部の原田正樹教授がワークショップ形式で講義を行いました。自治体や社協等の地域福祉計画策定時に用いられている「まちづくりの4つの窓」を使い、①私のまちのいいところ②身近なところで困っていること③こんなまちであつたらいいな④私たちができることをグループごとに話し合いをしました。長野県ならではの意見が多数出され、地域問題や少子高齢化の社会問題に関しても高校生の立場から問題に向き合い、しっかり考えている姿が印象的でした。

また、大学生との交流では、福祉系高校から本学へ進学した先輩から、高校と大学の違いや高校時代からの生活基盤の重要性等について語られました。時間を守る、挨拶をするなど、当たり前なのが高校時代に習慣化できると大学生になってから苦労することはない！とのアドバイスに高校生も納得した様子でした。

午後は半田キャンパスに移動して、健康科学部リハビリテーション学科の藤原秀子助教に「福祉機器と介護予防」をテーマに介護予防の定義や介護保険法について講義をうけました。また、高校では体験できない、介護リフトや介護浴槽・入浴機器などの福祉機器の使い方も教えてもらい、利用者が安心・安全・快適な生活を送れるように、また家族や介護従事者の介護負担が軽減できるようになっていることを、体験することで実感できたようです。

短い時間でしたが、大学生と交流し高校と大学の違いを知り、これから本格的に自分の進路を考えて行く中で、今回の大学での体験が進路選択の参考になれば嬉しく思います。



10月12日（金）長野県高遠高校文理進学コース2年生

生徒の進路希望分野に応じて、専門分野に関わる講義を受け、大学で学ぶことへの知的好奇心を高めるとともに、学生や教職員と交流しながら学生生活の雰囲気を感じ、自分自身のキャリア形成について考える機会として、このツアーを実施しています。

今年も同校文理進学コース等の2年生39名と学年会の先生方、計41名が美浜キャンパスにて、子ども、医療、心理、スポーツの4分野から、自分の興味ある分野を受講しました。

- ①子ども分野「困っている子どもの生活環境を理解する方法」
社会福祉学部 社会福祉学科子ども専修 野尻 紀恵 先生
- ②医療分野「医療専修で学ぶ 世界で一番面白い仕事！PSW(国家資格:精神保健福祉士)」
社会福祉学部 社会福祉学科 医療専修 寺澤 法弘先生
- ③心理分野「性格を計る -心理学的測定法入門-」
子ども発達学部 心理臨床学科 中村 信次 先生
- ④スポーツ分野「スポーツ科学を学ぶ意義」
スポーツ科学部 スポーツ科学科 岡田 雄樹 先生



「スポーツをしているが、スポーツの語源や意味は考えたことはなかった。改めてスポーツというものを見つめ直すことができた。」
「学生と先生が一緒になって講義を作っているため、講義内容が深く印象に残った」、
「先生の話に引き込まれてしまった。大学の勉強は想像していた以上に楽しかった」など感想が聞かれました。



講義のあとは、学食体験や学内見学、大学生との交流を行いました。高校とは異なる勉強方法や大学の環境を目にして、自分の将来について考える機会になったのではないのでしょうか。

ふくしのお仕事紹介

私の仕事

日福卒業生はいま

「利用者さんがいるからこそ、生かされている」と感じて

社会福祉法人廣望会 CoCoJAVJAV所長 小林 真由美 さん
(社会福祉学部社会福祉学科2005年度卒)



CoCoJAVJAV(ココジャブジャブ)でのお仕事

私の勤務する「CoCoJAVJAV」&「BakeryCafeCoCo」は、長野市若里にて障がい福祉サービス事業所として障がいのある方の「はたらく」を支援しています。

二つの事業所は、就労移行支援(例えば養護学校卒業後の進路として企業等に就職希望で、まずは社会人としてのマナーや働くルールを学ぼうという利用者さんが活動)と就労継続支援 B型(企業等に就職するとは違い福祉的就労、支援員の支援とともに就労訓練する、作業に取り組む)という事業のもと、養護学校卒業生ら30名ほどの方が通所されています。

自立や社会就労、福祉的就労を目指し、ホテル等のタオルを水洗いクリーニングする作業種のCoCo JAV JAVと、パン販売とカフェ営業を作業種とするBakery Cafe CoCoとして活動しています。



夢や希望に寄り添って

はたらくこと、活動することを「支援する」ことは、利用者さんの夢や希望に寄り添い、共に活動することです。

利用者さんのできることに着目し、できることを伸ばし維持しながら、社会の一員として活躍できる場、機会の提供ができるよう、どのような支援が必要か、どうしてその様な対応が必要なのかを考え、進めています。

先日、利用者さんに「小林さんは一番声が大きいんだよ～」と嬉しいひと言をもらいました。そのどきどきが嬉しいのか、それは事業所の雰囲気やカラーを作り出していくのも私の仕事の一つだからです。もちろん利用者さんが笑っていれば皆が笑顔です。でもその逆も、私たちが笑顔であれば皆さんも笑ってくれる、ひとり一人のモチベーションを上げられるよう大きな声と大きな笑いで毎日を築いています。そして「CoCoへ行くのが楽しみ」と思っていただけ、その一歩を引き出せる大切なことでもあるからです。

福祉を目指す皆さんへ

私が日福へ入学したのは、3年次からの編入です。短大で保育(保育士)資格を取得し、卒業後の障がい者施設に勤める中で、社会福祉という学問の必要性を感じたことからです。

そのときからいつも心にとめてきたのは、私は利用者さんに生かされている、という思いです。利用者さんがいるから

私が生かされ、頑張る力をもらっている・・・。

私たちの仕事は答えが一つではありません、けれど、目の前にいる利用者さんが正解を教えてください。どのようにしたらよいか悩むこともあります、やはり利用者さんとの時間はしあわせな気持ちになります。

そんな「ふくし」の現場で皆さんをお待ちしたいと思います。



長野県の皆さん、こんにちは！

今回は、心理臨床学科のご紹介をさせていただきます。日本福祉大学は、60年以上の歴史を誇る日本で最初の福祉の4年制大学として有名ですが、福祉と非常に近い関係にある心理学教育に関しても、以前から力を入れてきました。現在、子ども発達学部心理臨床学科において、臨床心理学から応用心理学まで、幅広い心理学の教育を展開しています。

心理学に関連した最近の大きなピックスとしては、日本初の心理専門職の国家資格、「公認心理師」の養成課程が開始されたことがあります。

公認心理師は、心理学に関する専門的知識や技術を活用して、「こころ」に関連する問題をかかえた人たちの支援を行う専門家の資格です。心理系の学部・学科で4年間心理学の基礎を学び、さらに2年間大学院で専門的知識を習得するか、2年間心理職として実務経験を積むことにより受験資格を得ることができます。

2018年入学生から全国各地の大学で、公認心理師養成に対応した教育が一斉にスタートしました。もちろん日本福祉大学においても、全力で学生の資格取得をサポートしていきます。公認心理師教育では、大学での講義・演習で基礎的な知識を身につけることはもちろん様々な施設(学校や病院、福祉施設、少年院や家庭裁判所などが想定されています)での学

外実習で、実践的な技能を修得することがとても大切になります。本学の福祉分野での豊富な経験を活用して、他大学ではできない充実した実習教育を展開していく計画です(興味を持った人は、ぜひインターネットで「日本福祉大学公認心理師資格情報サイト」をご覧ください。大学受験に役立つ心理学テクニックに関する解説コラムもあります)。

心理学は「自分自身を含めた人のこころ」という皆さんにとってものすごく身近な事柄を対象とする学問です。その分、みなさんが大学で学ぶ心理学には、最先端の脳科学から人の心に寄り添う臨床心理学まで多岐にわたる内容が含まれます。

また、講義で学んだ知識を活用するための演習も、心理学の研究手法を学ぶ「心理学研究法」や「心理実験」、専門のソフトを用いてデータ分析を行う「心理データ処理」、臨床心理学の基礎的技術の修得を目指す「臨床面接法演習」など様々なものが用意されています。心理学の学びの集大成は、大学3、4年の2年間にわたって少人数ゼミで指導が続けられる「卒業研究」です。それぞれの学生が、自身の興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、それまで学んだ心理学研究の心理学研究の手法を用いて、指導教員の指導を受けながら、積極的に卒論に取り組んでいます。多くの学生は、身近な出来事から感じた素朴な疑問から、各自の研究テーマを選んできています(例えば私のゼミでは、「服装の色と柄が着装者の性格推定

に及ぼす影響」や「食品パッケージの色彩設計が食味連想に及ぼす影響」、「BGMが作業効率と作業中のストレス抑制に及ぼす効果」など。私の専門が「色彩心理学」であるせいか、色が人に及ぼす影響に関連するテーマを選択する学生が毎年多くいます)。卒業研究は大変です。でも、「自分の知りたいこと」を「自分の工夫した方法」で解明する、すべての学術的研究に共通する過程を体験することのできる素晴らしい学びの機会です。やり遂げた後の達成感は何事にも代えがたいものがあります。

ぜひ皆さんも日本福祉大学で心理を学んでみませんか？



今年度の中村ゼミの4年生メンバーと。唯一の男子学生の下平君は赤穂高校出身。来年度長野にリターン就職します。

「日本福祉大学公認心理師資格情報サイト」



第9回 社会福祉施設のアート&クラフト展

2018年11月23日(金)~24日(土)
会場:アイシティ21

2018年11月23日(金)と24日(土)の二日間長野県東筑摩郡山形村にあるアイシティ21にて「第9回 社会福祉施設のアート&クラフト展」が開催されました。

本学職員が福祉事業所で一つの作品と出会い、『この埋もれているアートをもっと社会に広めたい!』と始まった本展示会。9回目を迎えた今回は松本圏内の福祉施設や団体、個人のご参加をいただき、総勢100点以上の作品が並びました。



アート&クラフト展の詳細は「日本福祉大学地域ブロックセンターフエイスブック」をご覧ください



広報物の表紙を飾ってくれたのは『あいアドバンス今井』に通所している斎藤辰夫さんの作品。ザワメキアート展2016で入賞された経験もあり、作品の多くはノートに描かれています。以前は昇目のノートを使用していたのが、現在は横罫のノートに描くことが多いそう。御年89歳の斎藤さんですが、作品製作には年々意欲的に取り組まれているようです。



アート&クラフト展 参加施設募集!!

日本福祉大学松本オフィスでは次回作品展に出展していただける施設、団体、個人の方を募集しております。詳しくは松本オフィスまでご連絡ください。

今回の展示会では初の試みとなるワークショップも開催されました。松ぼっくりをクリスマスツリーに見立て装飾を施す『クラフトコーナー』と、絵を描き額縁マットを裁断して額を作る『アートコーナー』。会場を訪れた子どもたちが一所懸命に作品を製作する様子が見られました。

当日は作品展の他にも施設の利用者の方によるキーボード演奏や各施設で作られている手芸品、工芸品、菓子類の販売も行われ、たくさんの方に福祉施設や利用者の活動について知っていただく機会となりました。来年度は節目となる第10回目の開催となります。より多くの方にご参加、ご来場いただけるように努めて参ります。

入試情報 2019年度入試 トピックス

今年度の入試のポイントをご紹介します！

◎ 社会福祉学部 スカラシップ入学試験

ポイント1 4年間の授業料と入学金が半額！

社会福祉学部スカラシップ入学試験の合格者は、4年間の授業料半額減免と入学金半額減免が受けられます。

“払い込んだ後の給付”ではなく、“払い込む金額が減免”される制度です。定員は20名です。

ポイント2 特別育成プログラムを実施

合格者には、入学直後から特別育成プログラムによる教育を実施。

先進的な取り組みを行う自治体などから講師を招く特別講座、学部長による学年末特別研修、その他多くの学習機会を用意します。

ポイント3 スカラシップを逃しても、もう一つのチャンスが！

スカラシップ入学試験が不合格でも、一定以上の成績の場合は「一般入学試験【前期日程】」合格の権利が得られます。



大学案内、入試ガイド、過去問題集をお届けします！！

日本福祉大学の入試に関する資料をご請求の方は右記の大学ホームページ、又は松本オフィスまでご連絡ください。お待ちしております。



入試に関する情報は、
大学HP内「受験生サイト」で！

入学試験要項、インターネット出願、合格者の入学手続要項など入試に関することはこちらのサイトをご覧ください。



入試区分	日程	出願方式	出願期間 ※最終日は午前10:00まで	試験日
一般入学試験	前期	A方式(3教科型),B方式(2教科型)	1/4(金)~1/25(金)	2/3(日)~2/5(火)
	後期	M方式(2教科型),センタープラス方式	2/16(土)~3/2(土)	3/9(土)
社会福祉学部 スカラシップ入学試験	前期	B方式(2教科型)	1/4(金)~1/25(金)	2/3(日)~2/5(火)
大学センター試験利用 入学試験	前期	全学部出願型(3教科)	12/17(月)~1/18(金)	—
	前期	5教科型,3教科型,2教科型	1/4(金)~1/28(月)	—
	後期	2教科型	2/16(土)~3/2(土)	—
スポーツ分野入学試験 文化・芸術分野入学試験	後期	—	2/4(月)~2/12(火)	2/17(日)

【重要】各入試内容については、「入学試験要項」「入試ガイド」を必ずご確認ください。

EVENT

通信教育部 2019年度入学説明会

日時:2019年3月2日(土)
14:00~16:00
場所:長野パスタミナル会館4階
(長野市大学中御所
岡田町178-2)

※事前予約は必要ありません
ので、お気軽にお越しください。

犀川スキーバス事故 三十五回忌法要

日時:2019年1月28日(月)
9:30~11:30(予定)
場所:正源寺
(長野市七二会甲1514)

現地慰霊碑
(長野市信更町字坪登
4677-4地先)

長野県地域同窓生に よる就職相談会

日時:2019年3月9日(土)
10:30~11:30(予定)
場所:えんぱーく
(塩尻市大門一番町12-2)

※詳細は学生の方に改めて
ご連絡致します。

日本福祉大学 長野県地域同窓会総会 長野実習報告会

日時:2019年3月9日(土)
12:00~17:00(予定)
場所:えんぱーく
(塩尻市大門一番町12-2)

※詳しくは下記フェイスブックで
お伝えしていきます。

日福と 長野県

Nihon Fukushi University &
Nagano Prefecture



実はとっても近い、
日本福祉大学と長野県との深いつながり

日福と長野県

長野県の各自治体との連携により広がる
多彩なフィールドワークや、日本福祉大学
での学びを活かし活躍する卒業生をご紹介
しています。



日福と長野県では、2018信州+ (プラス) P2~P4で紹介している、
長野県内でのフィールドワークをはじめ、長野県にまつわる様々な情報を掲
載しています。

また県内地域にいる卒業生のお仕事も紹介しています。
ふくし=介護だけではなく、ふくしの仕事の広がりをご覧ください。

日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24・3F

TEL:0263-31-9011 FAX:0263-32-8018

開館時間:10:00~18:00(日・月・祝は休館)

MAIL:e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp

日本福祉大学地域
ブロックセンター
フェイスブックもご
覧ください！

